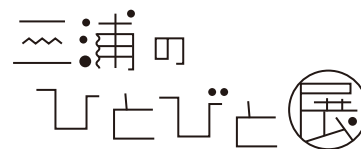


2016.09.030

「三浦の人びと展」実行委員会 / ミサキファンクラブ



## 農と漁の街“三浦”をポートレートで表現する「三浦の人びと展」 アウグスト・ザンダーが100年前に試みたプロジェクトを、現代の写真家・有高唯之が撮る

「三浦の人びと展」実行委員会は、農業と水産業が代表的な三浦市をテーマにしたポートレート展「三浦の人びと展」を開催します。本展は第1回展示を10/29（土）、10/30（日）の2日間開催し、作品を三浦の町中、畑、港、海岸などに展示。来場者には専用スマートフォンアプリを使って作品を案内します。そして第2回展示は12/1～12/11までの期間、昭和初期からの遠洋漁業基地「みさき魚市場」として知られる「三浦市三崎水産物地方卸売市場」を会場に、全作品を一堂に展示します。

三浦市は三方が海に囲まれた三浦半島最南端の市であり、代表産業は農業・水産業となります。かつてはまぐろ類の水揚げで全国有数の遠洋漁業基地として隆盛を極めた三浦市ですが、現在は就業・教育面では市外への流出が著しく、居住人口はわずか4万人となっています。有識者団体「日本創生会議」からは神奈川県市部で唯一「消滅可能性都市」と名指されました。

ここに住む市民は第一次産業従事者が多く、何世代も家業を続けてきた人が多数います。首都圏内に位置しながら人口密度が低いという環境的要素、江戸時代以前から引き継がれてきた農業・漁業に従事する人が多いという産業的要素、そして港町として栄え様々な地域や人や文化が行き交ってきた歴史的な要素、こうした要素が三浦で暮らしてきた人たちの個性となっています。この三浦市の特徴、ここで暮らす人の特徴から、人にフォーカスし、そのポートレートを集めることで、この土地特有の個性や風土を表現したいと企画したのが「三浦の人びと展」です。そしてこの企画の下敷きにはドイツの写真家アウグスト・ザンダーのプロジェクト「20世紀の人間たち」があります。

アウグスト・ザンダーは20世紀初頭のドイツ・ライン地方で暮らす人々を撮影し、ポートレート写真によってひとつの社会の全体像を記録しようと試みました。このプロジェクトは近代から現代へと移り変わるドイツ社会の一時代を写し出した壮大なドキュメント作品となっています。昔ながら続いてきた農業・水産業が中心となっている三浦市は、人の有様で土地の個性を表現できる街です。この街ではザンダーが試みたポートレートによる「写真による文化作品」を再現することができます。また、それは三浦市固有の風土を感じ、歴史、産業がもたらす人への影響を考える作品展になります。

フォトグラファーはスタジオボイスの「日本の写真家100人」に選出され、雑誌や広告など、ポートレート写真を中心に幅広い分野で活動している有高唯之氏が務めます。有高氏は数年前から三浦半島の逗子に移住し、これまで三浦の農家や漁師を撮影してきました。今回の企画では、有高氏が新たに撮影した作品40点が展示されます。

本展は会場を三浦市各地、三浦市三崎水産物地方卸売市場にすることによって、来場者がこの土地の風土や産業を感じてもらうことができる展示にしました。本展により街と産業と人の関係を考え、三浦市内外の人たちが街の個性を再認識する場を作り出します。



農家夫妻



調理師



まぐろ問屋



三浦市三崎水産物地方卸売市場

### 「三浦の人びと展」

第1回展示

時期：2016年10月29日、30日（2日間）

場所：三浦市各地（町中、畑、港、海岸など）

主催：「三浦の人びと展」実行委員会 / ミサキファンクラブ

協力：横須賀美術館

後援：神奈川県、三浦市、三浦市観光協会、三浦半島食彩ネットワーク

助成：平成28年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業

第2回展示

時期：2016年12月1日～12月11日

場所：三浦市三崎水産物地方卸売市場

主催：「三浦の人びと展」実行委員会 / ミサキファンクラブ

協力：横須賀美術館

後援：神奈川件、三浦市、三浦市観光協会、三浦半島食彩ネットワーク

助成：平成28年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業

事務局



ミサキファンクラブ

http://misakifc.com E-mail: info@misakifc.com

代表 TEL: 050-3706-8669



関東学院大学

SOMAI

本企画は関東学院大学が文化庁「平成28年度大学を活用した文化芸術推進事業」として採択を受けた「企画実践講座」の支援を受けて開催されるものです。